

新春を迎えて

村上彦二

新春を迎えご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、ご家族ともどもご健勝にて新年を迎えられましたことと、心からお喜び申し上げます。

さて、当協会は、会員皆様方の変わらぬご支援によりまして、設立30年を迎えましたこと、当協会を代表して、改めて心からなる謝意を表する次第です。先般、ささやかではございますが、協会誌とともに別冊“円柱材の世界”を感謝の印として、ご送付申し上げたところです。

当協会では、例年11月初旬に総会を開催いたし、事業計画や予算案のご承認をいただいておりますが、会員の方々が全国におよび、本州の会員の方が1/3を占める実情もありまして、総会にご出席いただけない実態にあります。そこで、例年協会誌の12月号に総会の内容をご案内いたしております。これと若干重複いたしますが、皆様方の一層のご理解とご協力を賜わりたく、私からも改めて新年度の事業内容について触れさせて戴きます。

最初に、協会誌“木材の研究と普及”は、従前から読みやすく、分かりやすくをモットーに努力してまいりましたが、未だ難解でよく読まれているという状況ではないようです。

そこで、新年の今月号から、誌名に副題ともいうべき親しみやすい名称をつけ、表紙のデザインを改め、さらに会員の皆様方に何らかの形で参画、ご登場いただくことを考えております。その一環として、今月号には高橋丑太郎氏と福井主計氏の対談を掲載した次第です。また、今回は木製窓枠の特集号となっておりますが、今後、製材の二次加工や太陽エネルギー乾燥などの特集号を発行いたし、皆様方のお役に立つよう努力してまいる考えですので、協会誌の充実について一層のご協力をお願いいたします。

また、当協会の本年度事業計画では、会員の加入促進を重点項目の一つとしておりますが、本道の主要林産業である製材業をとりあげてみましても、800有余の製材工場数のうち、会員になっておられる方は2割に満たない実状にあります。企業にとって、その運営と技術革新は、今後ますます必要とされましよう。中堅幹部の方、若手技術者の養成のため、本誌を広く活用いただきたく、皆様方におかれましても、会員の加入促進についてご協力いただければ幸いです。

なお、当協会が例年実施しております木材接着講習会（59年1月）、木材防腐講習会（同3月）、木材乾燥講習会（同9月）の講習会を予定しており、昨年度からは試験の受託、調査受託、さらにカラマツ円柱材やこれを使ったログハウス（丸太小屋）などの普及事業等を実施しておりますので、“皆様方の協会”として、当協会をお育ていただき、ご活用いただきますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、新春にあたり、皆様方のますますのご繁栄を祈念いたし、新年のご挨拶といたします。

—北海道林産技術普及協会 会長—